



- Shibetsu City -

地域力

令和4年(2022)年検証

別冊

天塩の流れとともに
人と大地が躍動する
すこやかなまち



士別市まちづくり総合計画

2018年度～2025年度

地区別計画



目次

■ 地区別計画の検証・見直し	2
■ 地区別計画（8地区）の別表	
1 「中央南地区」地区別計画	3
2 「中央北地区」地区別計画	9
3 「中央西地区」地区別計画	17
4 「中央農村地区」地区別計画	21
5 「朝日地区」地区別計画	25
6 「上土別地区」地区別計画	33
7 「多寄地区」地区別計画	38
8 「温根別地区」地区別計画	45
■ 検証・見直しのワークショップ等開催状況	50

＊ 地区別計画の検証・見直し

地区別計画は、総合計画と一体的な計画として、市内8地区の現状や課題、歴史などを踏まえ、「将来の地域づくりの目標」や「地域づくりの取り組み」を定めた計画です。

また、地区別計画を推進するためには、地域資源の活用や地域課題に対して、「自分たちのまちは自分たちでつくる」という意識を育み、住民主体の地域力を一層高める必要があります。

平成30（2018）年の策定から前期4年を迎えるにあたり、令和3年度において各地区でワークショップをはじめとした意見交換を行い、「地域づくりの取り組み」を見直しました。8地区の取り組み実績や今後の課題等の見直し内容について、別表で整理しました。

※本文中の〈取り組み実績（2018～2021年度）〉において、地区別計画に基づく新たな取り組みについては、文末に☆を付記しました。



「地域づくりの取り組み」の見直し**① 住みやすい環境を生かし、世代間交流や支え合いの『子育て・健康長寿』に取り組みます**

中央南地区には、幼稚園や保育園、学校、病院、歯科医院、食料品店などの施設が立地しているほか、公園や高齢者施設も多く、安心して長く住み続けられる恵まれた環境にあります。

少子高齢が進むなか、将来を担う子どもたちの育成と信頼関係を築くため、挨拶運動をはじめとした子どもたちとの接点を大切にしていきます。また、高齢な方がいきいきと暮らしていけるよう「ふまねっと運動」や「サロン活動」などの健康増進事業の拡大をめざします。

- ・子ども達への挨拶運動
- ・「子ども会活動」などへの参加呼びかけ
- ・「ふまねっと運動」「サロン活動」の拡大による健康増進
- ・ラジオ体操参加呼びかけ

② 地域での支え合いを大切に、安心できる住みやすい生活環境をめざします

自治会の役員の担い手不足や運営自体が難しいことなどが課題となっているなか、行事の合同開催を行うなど、自治会同士の連携による地域づくりを進めます。

また、高齢な方が元気で安心して住み続けられるよう、「福祉パトロール」による見守りを継続するほか、災害時の避難対応などの体制づくりによる安全・安心な地域づくりをめざします。

- ・自治会行事などの合同開催
- ・自治会未加入者への地域の行事などの周知
- ・福祉パトロールなど見守りの継続
- ・ごみのポイ捨て禁止の啓発活動
- ・災害時の避難体制の強化

③ 恵まれた地域資源を生かし、地域の魅力発信に取り組みます

南地区の自然豊かな環境を生かし、ウォーキングコースや地域の名所を紹介するマップを作成することで、世代間に関係なく地域を見つめ直す機会に繋がり、地域のPRや交流の場としても広がります。

また、神社や公園などの維持を地域住民の協力により継続していくことで、人との支え合いを地域資源とする地域づくりを進めます。

- ・ウォーキングコースマップ作成

地域づくりの取り組み①

住みやすい環境を生かし、世代間交流や支え合いの『子育て・健康長寿』に取り組みます

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 「春の交通安全運動」期間中の登校時間において、交通安全旗を活用した通過する車両に対する、注意喚起と児童の見守り等を実施（複数自治会）
- 「餅つき大会」や「子ども盆踊り」、「クリスマス会」等、子どもたちとの接点や世代間交流につながる取り組みを実施（複数自治会）
- 「ふまねっと運動」や「サロン活動」、「ラジオ体操」等の健康づくりにつながる取り組みの実施（複数自治会）
- オリンピックデーランへの参加（七星）☆
- 雪中ウォーキング、ウォーキング、親睦の集い、敬老会、新そばを楽しむ会、カーリング体験会の実施、縁日・子ども神輿支援、福祉ボランティア支援の実施（南町南栄）
- 親睦パークゴルフ大会の実施（南町第二）
- 子ども育成部による新入学児童への図書券プレゼント（南町南郷）
- 南町5自治会合同での親睦会の実施（南町南進）
- みんなの集いの実施（真夏の夜のビールパーティー）※令和元年度まで（東栄）
- 2020年から「ふまねっと」を開始し定着した、10名程度が参加。（東丘）☆

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 取り組みには財源が必要。資金調達が課題（あけぼの）
- 企画・運営する人材確保（七星）
- 少子高齢化に伴う参加人数の減少、高齢者への声かけ、住民へのPRの工夫（周知方法）、若者の参加増（南町南栄）
- パークゴルフの参加者減少、クリスマス会の開催方法の工夫（南町第二）
- 年々地域の子どもが少なくなっており、子ども育成会も育成部として運用している。（南町南郷）
- 昨年末子ども会がなくなった。全市的だと思うが活動の継続が難しくなっている。（南町南光）
- 参加者の確保（南町南進）
- 高齢化による参加者の減少（東栄）
- 高齢化に伴い家から出て活動する参加者が少ない、子どもが少ない。（南親会）
- 人材不足（第九）
- 行政の取り組み以上の相互交流は考えつかないため、複数自治会の現状の情報交換が必要と思う。（創成）
- 団地の空きが増えていることで、連絡が取れないことがある。中年層が少ない。活性化不足。（東丘）

推進に向けた取り組み

- 『啓発活動充実』健康長寿延伸に向けて健全な食生活や運動習慣定着のための啓発しかない。市からの配布物発送の際に同封する。(あけぼの)
- 市主催イベントへの参加呼びかけ(七星)
- 高齢者の方々との関わりを深める、送迎の保険、ウォーキングはトイレのあるコースを選ぶ、子ども会の充実を図る(親の参加も)、自治会だより回覧(南町南栄)
- 自治会の同好会との共催によるパークゴルフ開催、クリスマス会は集会所でプレゼント配布とした。(南町第二)
- 企業誘致等で若い人が就職できる環境づくりが必要。結婚・出産や保育園などの相乗効果が期待できる。(南町南郷)
- 宣伝及び隣近所への声かけのお願い(東栄)
- いろいろな活動内容を熟知した先生がいて、その人が各自治会より参加者を募り、教えて、各参加者が自治会に戻り自治会員に教え広める(山菜の達人、キノコの達人、太極拳等)(南親会)
- 担当役員等に依頼(第九)
- 地域行事を行いたいが、現状(コロナ禍)では難しい。(東丘)

地域づくりの取り組み②

地域での支え合いを大切に、安心できる住みやすい生活環境をめざします

〈取り組み実績(2018~2021年度)〉

- 「福祉パトロール」による見守り活動の実施(複数自治会)
- 「クリーンリサイクル運動」等の環境美化につながる活動を実施(複数自治会)
- 「土別市防災訓練」による避難訓練等の実施(複数自治会)
- 南町五自治会連絡協議会にて会合を実施したほか、南町神社祭典、保育園各行事の開催(南町南栄)
- 親睦パークゴルフ大会(南町第二)
- 令和3年度からの取り組みとして、4ヶ月間のラジオ体操を開始。コロナ禍においてマスク越しの挨拶で体づくりと顔の見える活動をしている。(南町南郷) ☆
- 停電自炊と宿泊訓練を実施(南町南郷) ☆
- 令和2年に避難共助計画を策定(南町南光) ☆
- 女性部の活動「わくわくバスツアー」の開催(南町南進)

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 福祉パトロールは独居高齢者のプライベートな部分と声掛けのバランスが難しい。(あけぼの)
- 福祉パトロールに協力いただいている方の高齢化。次の担当者への引継ぎ(七星)

- 人口減に伴う自治会役員の担い手不足、保育園閉園問題、ゴルフ場存続、高齢者の休憩所（友人に会える）が商業施設や病院等（南町南栄）
- 福祉パトロールは回覧で参加者を募った、クリーンリサイクル運動は土日に設定したが年配の方のほうが多い。（南町第二）
- 宿泊訓練は9月に自治会館で実施したが、夏用の寝袋では寒さに耐えきれず対策が必要（南町南郷）
- 自治会に対する関心や連帯意識の希薄化を感じる。（南町南光）
- 女性部の高齢化（南町南進）
- 参加者の減少、福祉パトロールは役員さんに依頼（東栄）
- 参加者の顔ぶれが同じで町内の人に広がっていかない。（南親会）
- 住民の高齢化（第九）

推進に向けた取り組み

- 独居高齢者宅の両隣の協力を得て孤立を防ぐ。（あけぼの）
- 福祉に関しては、自治会内といってもプライベートな問題もあり、市の専門知識を持っている方に関わってもらいたい。（七星）
- 各班の親睦等による絆が大切。班がまとまるとスムーズに進行する。（南町南栄）
- 福祉パトロールは役員で実施する状況、クリーンリサイクル運動は午前中2時間程度を目安とした。（南町第二）
- 当地域の避難所は南中学校だが全住民は入れず、段ボールベッドも全員の分はないと思う。分散避難と対策助成が必要だと思う。（南町南郷）
- 自治会に加入しなくても「広報しべつ」は入手できるし葬儀も業者への依頼で執り行えるなど、自治会加入の必要性が薄くなっているが、防犯灯の電気代の一部を自治会費で負担していることや避難共助等、自治会の必要性を理解してもらうことが大切（南町南光）
- 地域全体での見守り、声かけの推進（東栄）
- 福祉パトロールは担当者に依頼、環境美化については、一斉清掃は全世帯対象、廃品回収は役員対応（第九）

地域づくりの取り組み③

恵まれた地域資源を生かし、地域の魅力発信に取り組みます

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 「花いっぱい運動」や「クリーンリサイクル運動」等による、公園を含めた地域の環境美化活動の実施。（複数自治会）
- 停車場通りの除草（七星）
- 雪原をスノーシューにて森林散策（人気あり）、廃品回収と自治会一斉清掃（春・秋）、花移植・美化活動（南町南栄）

- 独居高齢者宅の物置等の除雪作業（南町南郷）
- 五自連での南町神社祭、盆踊り参加（南町南進）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 地域住民が地域を知らないこと（あけぼの）
- 公園の芝がタンポポ畑になっている。（七星）
- 自治会の手には負えないところが多い。（七星）
- 住民の協力にも限度がある。（七星）
- 「健康花いっぱい運動」の土、プランターの確保（七星）
- トイレを中心にコースを考えなければならないこと、参加者の増加（南町南栄）
- 花いっぱい運動は回覧で周知したが、やはり年配の方が多い。（南町第二）
- 新しい参加者が少ない。（南町南進）
- 毎年実施しているが参加者が減少（東栄）
- 住民の高齢化（第九）
- 地域老人の方が各自でウォーキングをしているが、地域の取り組みとなっていない。（東丘）

推進に向けた取り組み

- 「地域愛の醸成」地域を知り、地域に親しみ、地域をなんとかしたいと思うこと（あけぼの）
- 造ったままではなく、維持のためにメンテナンスも必要（七星）
- 参加募集は口コミが大事、民生委員・役員のパトロールを兼ねて募る、子ども会のネットワークを生かし募る、終了後は食事や休憩など気楽に会合（南町南栄）
- 会員のトラックで花苗を受け取り集会所の花壇や沿道に移植（南町第二）
- 除雪ボランティアの役員も高齢化している。若い人が増えてほしいが難しい。（南町南郷）
- 宣伝及び隣近所への声かけのお願い（東栄）
- ウォーキングコースを複数整え、特別な箇所については由緒について立て札を設置し、市の会報等で宣伝する。（南親会）
- 上記の課題を地域の取り組みになるようにしたい。（東丘）

全体を通して

- 地域活性化は「場作り」「人作り」そして継続である。（あけぼの）
- 各班の充実とまとまりが大切ということで、班単位での親睦会開催に対し自治会で補助をしている。コロナ禍でゼロなのが残念。（南町南栄）

- 年々増える高齢者福祉に対し、民生委員の動きが見えにくい。（南町南栄）
- 世代が交代していくなか、地域との交流よりも家庭中心の活動が主流になり、自治会行事等に参加する方が減少している。活動はほぼ年齢の高い方が中心（南町第二）
- 若い人の就職先確保や子育てしやすい環境づくりに力を入れるべきだと思う。高齢者も生きがいを持って暮らせる地域とまちづくりを。（南町南郷）
- コロナ禍の中で根付いた外出控えを以前に戻すための施策が最重要と考えます。（創成）

「地域づくりの取り組み」の見直し**①子どもとの挨拶運動を進めるとともに、自治会同士が連携した子ども向けイベントを継続（拡大）します！**

中央北地区には、幼稚園や保育園、小学校、中学校、高校と幼児期から大人になるまでの教育・保育施設が立地し、他の地区からも多くの子どもたちが通学してきます。中央北地区では、子どもたちとの挨拶運動を進めるとともに、子どもたちを交通事故や犯罪などから守るため、目配り・気配りを行いながら、安全・安心な地域をめざします。

また、現在、いくつかの自治会が連携して実施している子ども向けイベントを継続するとともに、他の自治会への拡大を進め、子どもたちが憩い集える地域をめざします。

②地域の見守り活動を継続するとともに、健康で元気な地域をめざします！

現在、一人暮らしの高齢者宅を中心に行っている見守り活動を継続し、高齢者が安心して暮らすことのできる地域をめざします。

また、高齢者が語り合えるサロンや敬老会などを開催するなかで、高齢者の外出する機会をつくり、高齢者にとって運動機能の向上を図るなど、健康で元気な地域をめざします。

③自治会同士で地区の将来を語り合う場を設けます！

現在、役員の担い手不足や若い世帯を中心に自治会の未加入者が増えるなど、自治会を運営するうえでの課題が増えています。一方で少子高齢化が進むなかにあって、高齢者の見守りなど自治会が果たす役割は大きくなっていることから、中央北地区を構成する自治会において、将来の自治会のあるべき姿を研究する語り合う場をつくりま

④自主防災組織の設立に向け、情報連絡体制を強化し、安全・安心な生活環境をめざします！

近年、大雨による家屋などへの浸水被害が増えており、地域で災害に備えた取り組みが重要となっています。まずは、行政との連携のもと避難場所の確認をするとともに、地域が地域を守るため、正確な情報伝達ができる体制づくりを進め、子どもから高齢者まで安全・安心に暮らせる地域づくりをめざします。

⑤公園を生かしたイベントを開催します！

中央北地区の多くの自治会に公園があることから、この地域資源である公園を活用した地域イベントを開催し、地域の活力を向上させる取り組みを進めます。

地域づくりの取り組み①

子どもとの挨拶運動を進めるとともに、自治会同士が連携した子ども向けイベントを継続（拡大）します！

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 「春の交通安全運動」期間中の登校時間において、交通安全旗を活用した通過する車両に対する注意喚起と児童の見守りを実施（複数自治会）
- 「秋の交通安全運動 人の波・旗の波大作戦」の実施による、交通安全の啓発（複数自治会）
- 子ども盆踊りやクリスマスパーティ、ラジオ体操の開催等の子ども向けイベントを実施（複数自治会）
- 新入学児童へのお祝い金と本人家族の了解を得て写真を撮り自治会内の回覧として見ることによって地域の見守りにつなげる。（九十九）
- 中学生以下に図書券を差し上げている。（第五）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 交通安全に対して小中学生はルールを守っているものの、模範となるべき高校生や一般の方が自転車の逆走や一時停止無視などが見られました。（桜丘）
- 自宅でのスマホやゲームに移行し、友達同士での外遊びをする子どもが減っているものと考えます。（桜丘）
- 家庭内のことは外からわかりづらい。子どもは家の中で弱者となる、発信しても地域の中で受け止める場が見当たらない。（九十九）
- 自治会には子どもがいなく、課題が思いつかない。（第四）
- 当自治会はもとより近隣自治会も子どもの数が少ない。（第三）
- 少人数でも集える行事が必要（親栄）
- 子どもが減少し高齢化が進み、参加者の固定化と減少で「楽しくない」と言われてしまいます。（第一）
- 地域も声（挨拶）掛けを務めているが、挨拶は余り戻らない。教育現場で知らない人から声掛けられたら不審者としての教育が先行している。声を出さなくとも会釈の大切さを大人を含めて学ぶべきです。（兵村）
- 小中高生の自転車、歩行時の通学での左側、右側通行の徹底を家庭・学校・地域で注意喚起を高めるべきです。（兵村）
- 見守りをしてもらう役員が減ってきています。（屯田）
- 2年に渡るコロナ禍のなか、子ども向けイベントが中止となり、再開にあたり感染対策等イベント内容の見直しが必要。（北光）
- 子どもが少なく難しい。（第五）

推進に向けた取り組み

- 高校生・一般の方への交通安全への注意喚起への取り組みを考えていただきたい。
(桜丘)
- コロナ過で参加型イベントが激減しましたが、再開と魅力ある新たな仕掛けが必要
(桜丘)
- 子どもは社会の宝であることを繰り返しメッセージとして伝える。困ったとき悩んだときは家族、先生、友達の外に近所のおじさんおばさんに話す方法もあると伝える。
(九十九)
- 自治会同士の連携は簡単ではない、子ども会等が先導して全市的なイベント企画等が必要 (第三)
- やはり担い手につきる。(親栄)
- 少ない子ども達をどう意識づけられるか、親たちと自分たちがどう変わるか、どう自分が指導力や目的感を子ども達に教えるだけの説明力と能力を向上できるか。(第一)
- 「旗の波大作戦」は決まったように報道されるが、各自治会で交通安全旗を活用している活動をもう少し知恵を出し合い広報誌などを利用し地域啓発すべきです。(兵村)
- 兵村自治体は子ども会ラジオ体操として、これまで40数年つづけ、夏休み期間7月25日～8月7日頃の2週間実施している。これを今後も維持するには、ラジオ体操協会の手を借りるなど、又教育委員会は地域に足を運ぶなどし、地域の小中学校の先生方を指導者として参加も必要です。(兵村)
※期間の参加人数はいつも協会へ報告していたが、たぶん協会が解散したようで、その後教育委員会もなんら話もない。

地域づくりの取り組み②

地域の見守り活動を継続するとともに、健康で元気な地域をめざします！

〈取り組み実績 (2018～2021 年度)〉

- 「福祉パトロール」等による、一人暮らしの高齢者等の見守り活動の実施
(複数自治会)
- 「ふまねっと運動」や「サロン活動」、「敬老会」の開催等による、交流・外出機会等の確保 (複数自治会)
- ラジオ体操やパークゴルフ大会、運動会等の開催やチャレンジデーの声かけ・参加等、健康づくりにつながる事業の開催 (複数自治会)
- 昨夏は暑い日が続いたのでメッセージカードと飴を配り、声掛けをした。今後は心配するとの相談から民生委員、保健師につなぎヘルパー利用に至る。(九十九) ☆
- 町内の人たちとの「あいさつ」と「声かけ」、除雪の手伝い (第一)

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 自治会行事や老人クラブへの参加者が増えない原因として、人との交流を避ける人が多くなってきたのが原因と感じられる。(桜丘)
- 集まる場所がないのが課題(九十九)
- 独居老人等の孤独死を防ぐため、福祉パトロールをはじめとする見守り体制の充実(宮下)
- ウイズコロナを見据えた事業の在り方(宮下)
- 会員ほとんどが高齢世帯という中で、サロン活動への参加を促しても十分な参加が得られない状況になっている。(第四)
- 自治会員の減少、高齢化(第三)
- 担い手の拡大が必須(親栄)
- 日中不在(共働き)や単独高齢者が増加し、単身者の増加で何をやるにも参加者が少ない。参加者が固定化してグループ内の人間関係に好き嫌いが大きいことに困っています。(第一)
- 行政が責任上隊員(福祉パトロール)に対し個人情報の研修を年1回は実施すべきです。又、隊員としている名称を馴染みやすく変更はどうか。(兵村)
- 敬老会を4年前に一度開催しましたが、参加人数は少なかったです。(屯田)
- コロナ禍で高齢者の外出機会が減り、精神的な苦痛、運動不足が懸念される。(北光)

推進に向けた取り組み

- 根気強く、様々な手法で声掛けをするしかないものかと思います。(桜丘)
- コロナ禍で外出がおっくうになっている、健康意識の高さにあらためて気づかされた。自分に必要だと思えば率先してワクチン接種の予約をする様子を見て、健康相談の日などつくれれば出かけるきっかけになりそう。(九十九)
- 参加されない世帯に対し、訪問し交流するなどの工夫が必要と考えている。(第四)
- 地域づくりを自治会に求めるのはやや無理がある。(第三)
- サポーターの育成を継続的にお願いしたい。(親栄)
- 時間を打ちあわせて訪問し「地域づくり」への希望項目や対話に行っても嫌がられることが多くて困っています。(第一)
- 福祉パトロールは向こう三軒両隣とボランティア活動ですし年々超高齢社会であり、現在の活動費対象世帯1件に対して年間3,500円としているのを大幅に減額するべきです。(兵村)
- 生活・介護支援サポートについて自治会として講座を修了した方の把握はまったくされない。(自主的で養成講座を修了した方で地域福祉パトロール活動に参加してもいいとしている方)を行政として自治会とのパイプ役を明確にすべきです。(兵村)

地域づくりの取り組み③

自治会同士で地区の将来を語り合う場を設けます！

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 自治会内の街灯の電気代は自治会が負担しているところあるごとにアピール。子育て世代の人にとって夜道が明るいのは恩恵のある事、そのせいかどうか、若い方が役員を受けてくださっている。(九十九)
- チャレンジデーの共同開催（第一・親栄・第三）☆
- 町内のななかまどシニアクラブが、コロナ禍の現在でも何とか定期的に活動され参加人数は減少しつつあるが何とか楽しくやっておられる。(第一)
- 未加入者（世帯）対策としては兵村自治会は敬老祝賀会「自治会事業」を通して敬老会対象 75 歳以上で未加入世帯も 1 度は自治会役員で記念品などを各戸を訪問し、自治会加入を促し、再度訪問し自治会加入に協力かを伺い、加入をいただけなければ、次年からは自治会敬老会対象者から外れることを伝えます。又、年度初めに自治会内未加入世帯全戸を調査し、「自治会加入のご案内」のパンフを配布して、その後役員が複数名で訪問した。結果、新規加入が 4 戸となった。(兵村)

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 各自治体で様々な取り組みをされていると思いますが、一堂に会して、自治会で抱える様々な課題を具体的に情報交換や協議する場は特になく感じています。(桜丘)
- 安心して年齢を重ねられ、できれば最期まで自宅にいたいという方が多いはず。病気や加齢で体が不自由になっても介護サービスなどサポートにつなげられる近所からの情報を得られる環境づくり。(九十九)
- コロナ禍により具体的に集まった実績がない。(宮下)
- 役員の担い手の固定化（宮下）
- 具体的な自治会活動の目標がない。(宮下)
- 当自治会は殆どが高齢世帯で、しかも戸数が極めて少ない自治会であるので、いずれ単独での運営は困難となる。(第四)
- 熱意を持って進めることは想像以上に大変なこと。(第三)
- 町内会役員へのなり手が不足し困っています。自分も 60 歳の時に一度やりましたが、また 69 歳で自治会長を頼まれましたが次の人材が見つかりません。(第一)
- 中央地区自治会連絡協議会で共有することが必要。アパート、マンションの建物所有者に対して、行政が自治会加入の協力を求めるべき。(アパート等の未加入者も、自治会設置の街路灯や環境美化、祭典等の恩恵あり)(兵村)
- 会員数が少なくなっている。(第五)
- 会員数の減少、高齢化による見守り制度の見直しが必要（北光）

推進に向けた取り組み

- それぞれの自治会で取り組みと抱える課題も異なるかもしれませんが、自治連等において企画いただければと思います。(桜丘)
- あの人に言えば何とかしてくれるかも？と思ってもらえる人、上品なおせっかいおばさん・おじさんの人材育成を希望します。(九十九)
- 自治会活動の目的を学習する機会の創設(広報の充実など)(宮下)
- つづけられる限り自治会運営を行い、その後、行政の導きで合併を含め自治会のあり方についての検討が必要(第四)
- 各自治会の温度差があり難しい。(第三)
- 近隣自治会での交流があればと思う。(親栄)
- 合併や統合を考える時期だと思います。(第一)
- 北星団地(全40戸)では25戸が入居しており、うち自治会加入が17戸、未加入が8戸となっており、自治会内でも問題となっている。紙広報で土別市の公営住宅の募集を見ても、役所的に感じる。市営住宅ごとに、利便性などの情報を知らせてもよいのでは。検討を進めるにあたり、自治会と情報を共有しながら実施すべき。(兵村)

地域づくりの取り組み④

自主防災組織の設立に向け、情報連絡体制を強化し、安全・安心な生活環境をめざします！

〈取り組み実績(2018~2021年度)〉

- 「土別市防災訓練」や自治会独自の防災訓練等の実施(複数自治会)
- 「自主防災組織」による防災体制の整備(桜丘)☆
- 民生委員が中心となって自治会員で福祉パトロール活動を、近隣住民の情報や自治会別高齢者・避難行動要支援者名簿のもとに実施していただいています。(複数自治会)
- 高齢者宅に簡易携帯トイレを配布(九十九)☆

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 定期的な安否確認がメインとなっており、突然の出来事への対応策は準備不足かと思われ、課題となっています。(桜丘)
- 緊急の時は情報を得られるかが課題、公的な場所から情報が流れてくるのを待つのではなく、どこにアクセスすれば情報を得られるか平時に確認しておく。(九十九)
- 災害時の防災に対する関心が薄いと思われる。(第四)
- 当地域は最も安全な地域との認識が強く危機感に乏しい、組織を作っても形だけに終わる。(第三)
- 自治会の班体制自体が脆弱化している。(親栄)
- コロナ禍という厳しいときですが、2~3カ所の町内合同で防災訓練を泊まりがけで

- やってほしい。(第一)
- 単年で自治会役員が変更となるため、自主防災組織などの重要性は理解するが継続性に不安があり、組織化に踏み切れない。(兵村)
 - 会員の防災意識の向上(北光)

推進に向けた取り組み

- 千年に一度の洪水災害地区のため意識不足は否めないものの、士別市全体の災害対策は理解しておく必要があり、それらの周知が必要と感じています。(桜丘)
- 緊急の時はだれが支援者として動けるか、だれが支援を必要としているかを把握できるかが問題。頼りにしていた人が役所の職員や消防士又は罹災も考えて体制づくりをしておく。高齢の方にはいざというときは近所の人が一番ですと伝える。そのためにも、できるだけ近所で仲良くしてもらおう。(九十九)
- 他自治会の防災対策を含め、防災全般に関する知識習得のため学習することについて検討していきたい。(第四)
- 隣同士で気にかける等意識付けを進める。(第三)
- 自治会の事業の全てが防災に繋がると捉え、事業の豊富化・呼びかけを続けることだと思います。(親栄)
- 1町内ではできないので近隣町内2～3カ所合同で実施体制を作ってほしい。(第一)
- 避難場所の看板に、避難対象となる地区や自治会名などを入れて、日頃から防災意識を高揚するべき。(兵村)

地域づくりの取り組み⑤

公園を生かしたイベントを開催します！

〈取り組み実績(2018～2021年度)〉

- ラジオ体操や盆踊り大会のほか、自治会での親睦事業の開催等において、地域の公園を活用(桜丘)
- 自治会にあるお寺や駐車場をお借りして事業実施している。(親栄)
- ほくと公園で毎年8月中旬に「夕すずみ会」と称して焼き肉(バーベキュー)とちょっとしたゲーム大会を家族連れで開催し、小さな子どもから高齢者まで集まり楽しくやりましたが、令和2～3年と開催できず残念がられています。(第一)
- 夏休みのラジオ体操(毎年実施)、盆踊り大会(毎年8月)、自治会大運動会(毎年10月)(兵村)
- スポーツを楽しむ会や花見など、公園を活用して会員相互のコミュニケーションを取る。(北光)

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- ベンチは増設されたものの、以前設置されていた遊具が危険なため取り外され、残ったのは1台のシーソーと2台のブランコ、砂場のみとなっています。また、公園のトイレが和式のため、小さな子どもたちは敬遠されていると思います。(桜丘)
- 今の課題はコロナが収まることのみ。公園はすばらしい、当自治会は水郷公園があり助かっています。(九十九)
- 連携が難しい。(第三)
- 冬期の施設利用に悩んでいる。(親栄)
- みんなが気楽に気軽に参加して喜んでもらえる集まりにしてほしい。(第一)
- 参加者数の減少、盆踊り大会での太鼓打ち手の確保対策として土別神社で行われている子どもたちの太鼓練習について、文化教育の一環として学校単位で参加ができないか。(兵村)
- 会員の高齢化により参加人数が減少(北光)

推進に向けた取り組み

- 魅力ある新たな遊具の設置と、トイレを洋式で可能であればウォシュレットも付けていただき、集うことができる公園としていただきたい。(桜丘)
- 水郷公園歩き方マップを作る。外周を一周すると○km。このコースを歩くと○km、何周すると土別一名寄を歩いたことになる等は、楽しみやすいと考える。(九十九)
- 当自治会において、公園を活用してのイベント開催は困難(第四)
- 開催しても老人と子どもしか参加しない、中堅層を動かすことが必要(難しい)(第三)
- 固くならず気軽にみんなが話せる場にしてほしい。(第一)
- 自治会内における事業の見直しについて、少しでも住民が参加できるよう見直しを行いながら実施している。(兵村)
- 自治会にモデル地区を設けて、自治会と行政で連携を図ることを検討(兵村)
- 市子ども育成会連絡協議会、児童館、小・中学校、地元の高等学校、市自治連などこれまで以上の連携強化が必要。(兵村)
- 会員相互による声かけにより参加者を確保する。(北光)

全体を通して

- 地域のリーダーが積極的に活動しなければ何も進まない。(第三)
- みんなが明るく笑みを浮かべ楽しく暮らせる土別になりますように。(第一)

「地域づくりの取り組み」の見直し**①「地域で語らい、コミュニケーションを図りながら、健康づくりに取り組みます」**

高齢化が進むなかで、運動習慣の定着や認知症予防をめざして、地域住民のコミュニケーションを図りながら、「ふまねっと運動」や「ダンス」などに取り組みます。

また、「ふどうパークゴルフ場」や「さくら堤防」など、運動環境に恵まれた立地状況を有効に活用しながら、健康づくり活動に取り組みます。

②「豊かな心を育むとともに、地域の伝統を守り、引き継ぐ活動をめざします」

西小学校の統廃合や西児童センターのあり方など、子育てを取り巻く環境の変化が見受けられますが、緑あふれる自然環境のもとで、豊かな心を育むよう、地域での「見守り活動」や「あいさつ運動」など、これまでも行ってきた取り組みの継続をめざします。

また、これまで自治会が取り組んできた歴史ある盆踊りをはじめ、様々な子ども会活動を自治会の連携のもとで開催し、「多くの子どもたちが集う取り組み」や「集まる場」を設け、子どもたちの健全な育成を地域でも進めます。

③「地域の力を集め、安全・安心な生活環境の実現をめざします」

冬場の交通安全対策や西小学校統廃合後の交通安全啓発など、世代を問わず、安全・安心な生活環境に向けた取り組みが必要になっています。これまで継続的に取り組んでいる「高齢者の交通安全講習会」や「救急救命講習会」、「交通安全街頭啓発」、「道路パトロール」などを積極的に行い、安全・安心なまちづくりをめざします。

④「地域資源を学習し、未来に引き継ぐ取り組みをめざします」

市内西地区は、長い歴史を誇る製糖工場が立地するほか、本市開拓の礎を築いた屯田兵上陸の碑が建てられるなど、多くの宝物が存在する一方で、これらについての沿革やいわれなどを伝承する取り組みが、十分に行われていない現状です。

これらの宝物について、地域で「学び」・「語る」取り組みに加え、次代を担う子どもたちに伝承することをめざします。

地域づくりの取り組み①

地域で語らい、コミュニケーションを図りながら、健康づくりに取り組みます

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 「ふまねっと運動」等による健康づくりにつながる取り組みを実施（複数自治会）
- 「パークゴルフ大会」や「ペタンク大会」などの開催による健康づくり（複数自治会）
- 毎年ウォーキング実施（駅南）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- ふまねっと運動を実施したいが指導者の育成（講習会実施案内が必要）（駅南）
- 超高齢化により地域住民の減少が進む中で健康づくりや運動をとおしたコミュニケーションを含めた取り組みを継続する体制を維持していく。（観月）

推進に向けた取り組み

- コロナの状況等で参加者が減少しているので感染対策を徹底し安心して参加できる環境を整える。（駅南）
- コロナ禍にあっても感染対策や規模縮小など工夫しながら活動を止めない継続的な実施（観月）

地域づくりの取り組み②

豊かな心を育むとともに、地域の伝統を守り、引き継ぐ活動を目指します

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 「春の交通安全運動」期間中の登校時間において、交通安全旗を活用した通過する車両に対する注意喚起と児童の見守りを実施
- 「ミニ雪祭り」や観月・駅南・にっぺんの3自治会の連携のもと、「夏祭り」を提供することによる子どもたちが集う取り組みを実施☆

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 子どもから高齢者まで、地域の方々がふれあう機会を提供し地域のつながりをつくる。（観月）

推進に向けた取り組み

- 地域の方々が気軽に参加でき、企画する役員にも負担が大きくない行事を継続して実施する。(観月)

地域づくりの取り組み③

地域の力を集め、安全・安心な生活環境の実現を目指します

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 「春の交通安全運動」期間中の登校時間において、交通安全旗を活用した通過する車両に対する注意喚起と児童の見守りを実施（複数自治会）
- 街灯の管理や防犯旗の掲揚等、日常における防犯管理の実施（複数自治会）
- 西広通りのゴミ拾い等、ウォーキングと並行して実施（駅南）
- 令和3年に「子ども110番の家」を実施（観月）☆
- 振り込め詐欺などの防犯講習を実施（観月）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 駅南地区に多く建つマンション住人の自治会未加入が多いため加入促進（駅南）
- 一人暮らしや高齢者世帯の増加が見込まれることから、地域全体の見守り活動に発展させる。(観月)
- 自治会未加入者に加入を促し地域力を高める。(観月)

推進に向けた取り組み

- 「つながり」の意識を高め一人ひとりが互いにちょっと気にかける関係づくりを様々な活動を通じて創る。(観月)

地域づくりの取り組み④

地域資源を学習し、未来に引き継ぐ取り組みを目指します

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 「ミニ夏祭り」や「ミニ雪祭り」の開催等、地域が主体となった子どもたちとの交流の機会を確保（複数自治会）☆
- 盆踊り、ラジオ体操（駅南）☆

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 少子化や小学校の廃校で地域の若い世代が減少しているなかで交流機会を確保していくこと。(観月)

推進に向けた取り組み

- 活動内容の周知を徹底し活動継続に向け努めていきたい。(駅南)
- 隣接自治会との連携、協力により子どもたちの交流する場をつくる。(観月)

全体を通して

- ふまねっと指導者講習会等を実施し、日程をお知らせしてほしい。(駅南)
- 駅南地区に多く建つマンション住人の自治会未加入が多いためオーナーに加入を勧めてほしい。(駅南)
- 西広通りの交通量が増えスピードダウンを徹底してほしい。(駅南)
- 以前実施していたラジオ体操の再開について検討したいので、旧西小学校の使用許可がほしい。(駅南)
- 高齢者が増加しているのに敬老会の補助金が毎年減額となり不満(駅南)

「地域づくりの取り組み」の見直し**①「子どもとの挨拶運動を進めるとともに、「地域 110 番」に取り組みます！」**

地域の子どもたちが、将来にわたって中央農村地区の未来を支えることができるよう、ふるさとへの愛郷心をさらに醸成するため、地域全体で子どもを見守る体制づくりが必要です。そのためには、日頃から地域全体で「挨拶運動」をさらに進めるとともに、不審者などから子どもや高齢者などを守る「地域 110 番」の取り組みを進めます。

②「老いも若きも、心も体も、健康で元気な地域をめざします！」

生涯にわたり健康で過ごすために、定期的な健康診断を受けるとともに、地域でコミュニケーションをとりながら、「心」と「体」の健康の維持・増進に努めます。

③「自主防災組織を設立・強化し、安全・安心な生活環境をめざします！」

近年、大雨による家屋などへの浸水被害が多くなってきており、地域で災害に備えた取り組みが重要となっています。まずは、行政との連携のもと避難所の場所、設備を点検するとともに、地域が地域を守るため、正確な情報伝達などができる自主防災組織の設立及び強化を進め、子どもから高齢者まで安全・安心に暮らせる地域づくりを進めます。

④「将来にわたって美しい農村景観を守る取り組みを進めます！」

中央農村地区は、本市の観光やスポーツ合宿、文化、環境などの拠点施設が数多く立地され、さらに主要道路も数多くあり、来訪される方など交通量は非常に多い地域です。このようななかで、一部のこころない通行者（来訪者）がゴミを捨てている状況が見受けられることから、本市に観光などで訪れる方が気持ち良く通行できるよう清掃活動などの取り組みを進め、自らの美しい農村景観を後世に引き継ぐことをめざします。

⑤「肥沃な大地からもたらされる大地の恵みに感謝するイベントを継続開催します！」

中央農村地区は、収穫できないものがないと言われるほどバランスのとれた農業が営まれています。現在、各地域で開催している催しを継続し後世に引き継ぎ、大地の恵みに感謝する機会を設け、本市の基幹産業である農業を守り育てるため、地域の振興につながる取り組みを進めます。

地域づくりの取り組み①

子どもとの挨拶運動を進めるとともに、「地域 110 番」に取り組みます！

〈取り組み実績（2018～2021 年度）〉

- 「春の交通安全運動」期間中の登校時間において、交通安全旗を活用した通過する車両に対する注意喚起と児童の見守りを実施。（複数自治会）
- 「福祉パトロール」や「こども 110 番」等の取り組みによる見守り活動の実施（複数自治会）
- スクールバスによる児童通学での安全確保（複数自治会）
- 交通安全旗を町内各所に配置（中士別）
- 高齢者宅の除排雪（学田）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 福祉パトロールの担当を班長にお願いしているが、班によっては班長が高齢者で自家用車を保有していない方もおり、班長以外の方をお願いすることもあり、年々担い手の確保が難しくなっている。（中士別）
- 意欲の減少と参加者の高齢化（学田）
- 街灯は LED 化となったが要望があれば増設も必要と考える。（武徳）

推進に向けた取り組み

- 道道や広域農道があり交通量も多いので出会い頭の事故防止に向けた、視認性の良い標識の整備等交通安全に努めていく。（武徳）
- 小学校が閉校となっているが入学式前に地区内で安全旗を掲げる。福祉パトロールは地区に合わせて取り組みを実施する。（下士別）

地域づくりの取り組み②

老いも若きも、心も体も、健康で元気な地域をめざします！

〈取り組み実績（2018～2021 年度）〉

- 「サロン活動」や「福祉パトロール」のほか、「花いっぱい運動」「体育祭」等の自治会活動を通じた、健康づくりや地域内のコミュニケーションの推進につながる取り組みを実施（複数自治会）
- コスモスや桜の植樹（学田）
- ふるさと祭、南士別神社祭、勤労感謝祭の実施（南士別）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 花いっぱい運動については協力してくれる家庭、団体が年々少なくなっている。
(中土別)
- コロナの影響による参加者減(北町)
- 小学校のグラウンドもなくなり、(イベント実施など) 広々とした場所がなくなってしまった。(武徳)
- 花いっぱい運動は会館と旧校庭に花を植えて地区の美化に取り組んでいる福祉パトロールは年1回訪問を続けているほか、独居宅には役員が訪問し近況を確認している。
(下土別)

推進に向けた取り組み

- 参加者を増やす。(学田)
- 民生委員との連携強化(武徳)

地域づくりの取り組み③

自主防災組織を設立・強化し、安全・安心な生活環境をめざします！

〈取り組み実績(2018～2021年度)〉

- 「土別市防災訓練」への参加等による防災訓練の実施(複数自治会)
- 「福祉パトロール」の実施による見守り活動の実施(複数自治会)
- 「自主防災組織」による防災に関する取り組みの実施(複数自治会)

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 連帯意識の低下(学田)
- 一人暮らし世帯の増加(武徳)
- 地区に防犯組織を作っているが特に活動はしていない。また、繁忙期等は忙しく訓練の実施も難しい。(下土別)

推進に向けた取り組み

- 高齢者世帯と浸水被害想定場所の把握(学田)
- 近隣住民同士の声掛け(武徳)

地域づくりの取り組み④

将来にわたって美しい農村景観を守る取り組みを進めます！

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 「クリーンリサイクル運動」等の環境美化につながる活動を実施（複数自治会）
- グラウンドや霊園、道路環境、神社、記念碑等の草刈り等の環境美化につながる活動を実施（複数自治会）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 会員の減少と高齢化（学田）
- 空き缶などのごみ投棄の防止（武徳）
- 旧校庭への年2回の草刈りのほか機械での作業が難しい狭い箇所への除草剤散布（下土別）

推進に向けた取り組み

- 各種事業の恒例化（学田）
- 通行車両へのごみ投棄防止への取り組み（武徳）

地域づくりの取り組み⑤

肥沃な大地からもたらされる大地の恵みに感謝するイベントを継続開催します！

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 地鎮祭や収穫祭等の催しを継続して実施（複数自治会）
- 令和3年3月で廃駅となった「下土別駅」で、66年間の歴史に感謝するお別れ行事を行うとともに、座談会を開催し、駅舎の歴史を保存（下土別）☆

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 自治会会員の減少（武徳）

推進に向けた取り組み

- コロナ渦におけるコミュニケーションの連携の強化（武徳）
- 春、秋の地区内における地神祭の実施（下土別）

「地域づくりの取り組み」の見直し**①「現有施設の有効活用」**

朝日地域は、サンライズホールや各種スポーツ施設などの公共施設を多く有しているため、施設の利用促進と有効活用をするなかから、さらなる地域コミュニティを醸成します。

②「文化・スポーツ・合宿・イベントの取り組み」

- ・土別市無形文化財「瑞穂獅子舞」の全市的な継承と地域での支援を進めます。
- ・文化、スポーツ団体は他地域で活動している同種団体との交流などの取り組みに努め、団体の魅力向上と活性化に努めます。
- ・道内外からの文化・スポーツ合宿及びアーティストに対し滞在中の活動の支援（インレジデンス）を地域で推進します。
- ・各種イベント開催に、地域住民がより一層携わるなかから地域コミュニティの充実をめざします。

③「地域資源・自然を生かした取り組み」

- ・天塩岳、天塩川、岩尾内湖を素材としたPRや地域での交流の場として活用します。
- ・地域に伝わる食生活、伝統を守り伝えます。

④「人と人とのつながりを大切にした取り組み」

- ・安心な子育てと教育に対する取り組みとして、地域と学校などとの関わりを深めます。
- ・自治会を中心とした地域コミュニティのために将来的な自治会再編の検討を進めます。
- ・独居高齢者、高齢者世帯に対する日常的なコミュニケーションと見守りを進めます。

地域づくりの取り組み①**現有施設の有効活用****〈取り組み実績（2018～2021年度）〉**

○施設の利用促進

- ・市HPやFB、広報で開・閉館日時等を周知するほか、市内外の各種イベント等において、観光パンフレット等を配付して利用促進を図っている。
- ・道内外から来市している合宿チームが参加する大会等に出向き、激励と共に合宿招致活動を行い、利用促進を図っている。
- ・サンライズホールについては、独自のHPやFBにより周知を図っているほか、「サンライズホール友の会」会員には、公演ごとにチケットの発売をメールで周知して利用促進

を図っている。

○施設の有効活用

・サンライズホール

コンサート、演劇、落語、映画等実施、文化祭、朝日中学校学校祭、市民劇、自主企画事業、アウトリーチ事業、各種公民館講座、吹奏楽等合宿

定例利用～コール朝日、あさひ和の会、民謡愛好会、カラオケ愛唱会、茶道会、健康ダンスの会、エアロビ愛好会、パッチワーク愛好会など

・朝日図書室

・朝日郷土資料室 毎月知恵の蔵運営委員会月例会、月1回程度視察見学

・朝日町郷土文化伝習館 祭典等の時期に合わせ獅子舞、花笠の練習

・あさひパークゴルフ場 定例利用～パークゴルフ協会

・朝日山村広場

定例利用～サムライブレイズ、朝日野球クラブ、あさひスポーツクラブ、クロスカントリー少年団

・朝日ローラースキー・ジョギングコース

定例利用～クロカン少年団、個人のジョギング・ウォーキング、サマーコンバインド大会、宣言タイムマラソン大会の開催

・朝日トレーニングセンター

バレーボール等合宿利用、個人のウエイトトレーニング、福祉運動会の開催

定例利用～剣道、ミニバレー、パークゴルフ、タンブリング、ラジオ体操、あさひスポーツクラブ、アルペン少年団、クロカン少年団

・朝日プール 小中学校の水泳授業、水泳教室

・朝日テニスコート、朝日運動広場～近年利用がない施設

・三望台シャンツェ

全日本サマージャンプ兼ジュニアサマージャンプ、サマーコンバインド、クラレカップ、合宿の里土別ジュニアサマージャンプ、イトイカップの開催、ジャンプ合宿

・あさひスキー場

小中学校スキー教室、朝日アルペンスキー少年団の活動、基礎スキー教室、幼児スキー教室、あさひアルペン競技大会、町民冬季スポーツ大会の開催、アルペンスキー・スノーボード合宿

・クロスカントリースキーコース

朝日ノルディックスキー大会、あさひジュニアクロスカントリースキー大会の開催、クロスカントリー

・コンバインド合宿

・岩尾内白樺キャンプ場 多くのキャンプ客が来訪、岩尾内湖水まつりの開催

・天塩岳ヒュッテ 天塩岳山開き、天塩岳速登競争

・農産加工実習施設 1年を通して農産物等の加工

・朝日地域交流施設和が舎（山村研修センター） 一般客、多くの合宿客が利用

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 朝日図書室は、平日仕事等で利用できない方や帰省客などが利用できるよう休日も開館し、利用者の増加を図る必要がある。
- 利用率の低い施設は、更なる周知により利用者の増加を図るほか、常に利用可能な状態に維持管理する必要がある。(朝日運動広場、テニスコート等)
- あさひスキー場は町のシンボルであり、少年団の取り組みなど多くの実績があるため今後も必要な整備を望む。
- 仕事や観光で訪れた人が、いつでも気軽に利用できる公衆トイレの再開を望む。
- いきいき健康センターや武道館など、閉鎖した施設周りの環境整備の充実。

推進に向けた取り組み

- 現有施設については、概ね有効活用され地域コミュニティの醸成につながっていることから、現行の取り組みを継続していく。また、利用時間が短縮となった施設や閉鎖された施設については、利用状況等を調査するなかで今後の必要性について検討していく。

地域づくりの取り組み②

文化・スポーツ・合宿・イベントの取り組み

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 土別市無形文化財「瑞穂獅子舞」の全市的な継承と地域での支援を進めます。
- 瑞穂獅子舞
 - ・ 朝日神社例大祭や文化祭芸能発表会において演舞を披露、令和元年10月には道北ブロック交通安全指導員研修会が土別GHで行われ、アトラクションとして演舞を披露
 - ・ 平成27年11月、創舞100周年記念式典開催、記念誌、映像記録(BD)を制作(※計画期間外)
 - ・ 過疎化・少子化により瑞穂地区の子ども達に限定した活動は困難となったが、地域全体の子ども達による伝承活動が行われている。
- 文化、スポーツ団体は他地域で活動している同種団体との交流などの取り組みに努め、団体の魅力向上と活性化に努めます。
- 平成30年9月、コール朝日の会員13名を含む市民合唱団18名が、台湾で行われた「台日友好音楽会」に参加し、3年前の土別公演で親交を深めた竹友男声合唱団をはじめ、多くの合唱団との交流を図った。
- 平成27年6月、第29回北海道山岳連盟交流登山会土別大会が岩尾内湖白樺キャンプ場・天塩岳で行われ、朝日山岳会会員及び地域のスタッフが全道各地から訪れた226名の参加者と交流を図った。(※計画期間外)

- コール朝日や岩尾内太鼓等の文化団体は、各種イベント等に参加・披露する中で、同種の団体との交流を図っている。
- 野球やパークゴルフ、ミニバレー等のスポーツ団体は、各種大会等に参加する中で、同種の団体との交流を図っている。
- 道内外からの文化・スポーツ合宿及びアーティストに対し滞在中の活動の支援（インレジデンス）を地域で推進します。
 - 公共交通を利用した合宿者に対しては、空港や駅までの送迎を行っている。
 - スポーツ合宿者に対しては、滞在中飲料等の差し入れを行い支援している。
 - 冬季スポーツの合宿者に対しては、降雪の都度除雪等の整備を行い練習環境を整えている。（三望台シャンツェ、朝日スキー場、クロスカントリースキーコース）
 - 吹奏楽の合宿においては、滞在中にサンライズホールで地元住民を対象にコンサートを行っているが、住民が観客として声援を送るなかで活動の支援・交流を図っている。
 - 鬼太鼓座などプロのアーティストが、滞在中に開催するワークショップなどに地域住民が積極的に参加し交流することが活動の支援につながっている。
- 各種イベント開催に、地域住民がより一層携わるなかから地域コミュニティの充実をめざします。
 - 朝日体育まつり
 - ・ 6月第3日曜日・参加者数 平成30年300人、令和元年250人（令和2、3年中止）
 - ・ 自治会ごとに4つのチームに分け、チームが一丸となって競技に取り組み、住民相互の連帯感を高めている。
 - じゃんじゃんジュビリー
 - ・ 9月第1日曜日 ・入込数 平成30年2,500人、令和元年1,800人（令和2、3年中止）
 - ・ 地元特産品・農産物販売、フリーマーケット、糸小児童収穫野菜の即売会など実施、地域住民が大勢参加のもと活気にあふれ、住民とのふれあいも深まり、地域の活性化につながっている。
 - 復活！朝日町商店街
 - ・ 朝日地区商店街の空き店舗・空き地を活用し、道道を歩行者天国として、お笑いライブ、カラオケ大会、フリースロー大会、飲食物販など実施、商店街の魅力向上と地域の活性化を図っている。
 - ・ 平成30年9月16日 入込数 3,500人、・令和元年8月11日 入込数 3,200人
 - ・ 令和2年 復活！朝日のパン屋さん（コロナ禍による代替イベント）
 - ・ 令和3年10月31日 入込数 300人
 - コロナ禍により夏場の開催ができず10月にサンライズホールで開催。新規開業者の発掘や次世代の経営者育成を目的として地元小中学生を対象に「就業体験」を実施。
 - 朝日町商店街の未来予想図作成と具現化事業
 - ・ 商店街の衰退を防ぐため、地域の関係者が一丸となって課題解決に向けたワークショップ、外部有識者を招いた学習会を実施。

コンパクトタウンを目指した未来予想図を作成し、交流人口の増加に資する取り組みを検討した。(平成30年度・令和元年度の2ヶ年事業)

- ふるさと「あさひ」まちおこし協会「花見の会」(6月)(令和2、3年中止)
 - ・来場数 平成30年250人、令和元年250人
 - ・カラオケ、抽選会、ジンギスカンなどを行うなかで、地域住民の親睦・交流を深め、地域の活性化を図っている。
- ふるさと「あさひ」まちおこし協会「収穫感謝フェスティバル」(10月)
 - ・来場数 平成30年250人、令和元年250人(令和2、3年中止)
 - ・農産物即売会、もちつき大会、抽選会、ジンギスカンなど実施し、地場製品の普及・啓発、地域住民との交流親睦を図っている。
- あさひベタ雪まつり(3月)
 - ・長靴飛ばし、子ども宝探し、ジャンプン杯、お楽しみ抽選会、もちまき・お菓子まきなどを実施し、地域の活性化を図っている。

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 「瑞穂獅子舞」に対する全市的な継承と地域での支援について
 - ・継承していく子どもたちが少なくなっており、更に大人の伝承者においても高齢化で減少しており、今後伝えていく人も途絶える可能性がある。
 - ・市内外のイベント等に参加し、更なるPRが必要。
- 文化、スポーツ団体の他地域で活動している同種団体との交流などの取り組みの推進について
 - ・市内の郷土芸能については、後継者不足が課題となっており、合同でイベントを行うなど、更なる交流を推進するなかでPRにもつなげていく必要がある。
- 文化・スポーツ合宿者及びアーティストに対する滞在中の活動支援(インレジデンス)の地域での推進について
 - ・合宿者等が滞在中に利用する施設等について、常に利用可能な状態に維持管理する必要がある。(朝日運動広場、テニスコート等)
- 各種イベントへの地域住民のより一層の関わりについて
 - ・地域のイベントに多くの住民が参加できるよう声掛けをしていく必要がある。

推進に向けた取り組み

- それぞれの取り組みについては、地域として概ね取り組むことができおり、現行の取り組みを継続していくほか、「瑞穂獅子舞」の継承にあたっては、地域の伝統文化として途絶えることなく後世に継承していくため、地域として更なる支援を行っていく必要がある。また、地域の各種イベントには、多くの住民が携わっていけるようPR及び声掛けを行っていく。

地域づくりの取り組み③

地域資源・自然を生かした取り組み

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 天塩岳、天塩川、岩尾内湖を素材としたPRや地域での交流の場として活用します。
- 天塩岳山開きの開催
 - ・ 毎年6月第1日曜日（令和2、3年中止）
 - ・ 参加者数 平成30年65人、令和元年43人、スタッフ 平成30年28人、令和元年21人（約6～7割が札幌・旭川など市外からの参加者）
- 天塩岳速登競争（8月、主催・運営：FOREST、後援：士別市、協賛：イトイGHD）
 - ・ 参加者 令和元年89人、令和2年110人、令和3年113人（平成30年大雨中止）
 - ・ 令和2年からレースを終えた選手に地元RIFAINDのカレーが主催者から提供された。
- 岩尾内湖水まつりの開催（6月、令和2年中止）
 - ・ 令和3年8月 コロナ禍により代替イベントとして、キャンプ場来場者向けにテイクアウトメニューの販売のほか、キャンプファイヤーを実施。岩尾内ダム管理支所によるダム50周年を記念したパネル展も行われた。
- 地域に伝わる食生活、伝統を守り伝えます。
- 朝日のソウルフード「笹寿司」は、保存食として現在も各々の家庭において親から子どもに引き継がれ、祭事等の場合に食されている。
- かわ井商店さんによる「笹寿司」の販売
 - ・ 店頭のほか、市内外のイベントに参加して「笹寿司」を販売し、朝日の魅力を発信している。
- 復活！朝日のパン屋さん（コロナ禍によるイベント内容の見直し）
 - ・ 近い将来朝日町で空き店舗を活用してパン屋さんを開業したいと志望する方を発掘するため、新たなパンの作品募集・審査を行った。応募作品 7件（うち6件は市外）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 天塩岳、天塩川、岩尾内湖を素材としたPRや地域での交流の場として活用します。
 - ・ 天塩岳速登競争は、参加しなくても応援等で盛り上げられるようなイベントになることを望む。
 - ・ 岩尾内湖水祭りの開催時期は、他のイベントと重ならないような日程で実施する必要がある。
- 地域に伝わる食生活、伝統を守り伝えます。
 - ・ 朝日地区の野菜等が道の駅で販売されており、今後も継続されることを望む。
 - ・ 笹寿司等、朝日地区の特産品を市内、市外のイベント等で積極的に販売しPRしていただきたい。

推進に向けた取り組み

- 地域資源・自然を生かした取り組みについては、概ね取り組むことができおり、現行の取り組みを継続していくほか、地域に伝わる食生活「笹寿司」等においては、市内外の様々なイベントに出店し「朝日の食」を広く発信していく。

地域づくりの取り組み④

人と人とのつながりを大切にした取り組み

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 安心な子育てと教育に対する取り組みとして、地域と学校などとの関わりを深めます。
- つどいの広場「きら」あさひでは、子育てに関する情報提供や、悩みや不安などの相談を実施
- 知恵の蔵委員会では、朝日地区の児童・生徒を対象とした自然散策や講話などを実施
- あさひクラブ(高齢者教室)では、糸魚小学校の農園活動支援を通じた食育活動を実施
- 糸小・朝中の両校に学校運営協議会（コミュニティースクール）が設置され、学校と地域が連携・協働して学校運営の改善や児童・生徒の健全育成等の取り組みが進められている。
- 自治会を中心とした地域コミュニティのために将来的な自治会再編の検討を進めます。
- 自治会再編については、朝日地区自治会連絡協議会総会・役員会において協議した経過があり、今後、更なる戸数の減少や役員の担い手不足などにより、自治会運営に支障を来すことが考えられることから、将来的な統合・再編に向け検討を進めていくこととしている。
- 独居高齢者、高齢者世帯に対する日常的なコミュニケーションと見守りを進めます。
- 自治会による独居高齢者、高齢者世帯の見守り実施
- 地域担当職員による高齢者実態調査の実施

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 子育て・教育に対する今後の地域と学校などの関わりについて
 - ・コミュニティスクールを有効活用し、地域との連携を一層進めていく必要がある。
- 将来的な自治会再編の検討について
 - ・自治会の役員会を中心に検討していく。
- 独居・高齢者世帯に対する日常的なコミュニケーションと見守りの取り組みについて
 - ・見守りについては、高齢化が進み大変になってきているため、福祉パトロールなどの利用により地域との結びつきを強めて行く必要がある。

推進に向けた取り組み

- それぞれの取り組みにおいて、人と人とのつながりを大切にしながら、現行の取り組みを継続していくほか、子育て・教育に対する今後の地域・学校などの関わりについては、コミュニティスクールを有効活用するなかで、地域との連携を一層進めていく。また、独居・高齢者世帯に対する日常的なコミュニケーションと見守りの取り組みについては、高齢化が進むなか、見守りの体制が難しい状況になることが予想されるため、福祉パトロールなどの利用により地域との結びつきを強めて行く必要がある。

「地域づくりの取り組み」の見直し**①「世代間の交流の場づくりをめざします」**

人口減少や少子高齢化が進むなかで、地域で子育て環境を整えていくことは、地域の活力を維持・向上していくことにつながります。

子どもたちが、のびのびと遊び学ぶことのできる場を確保していくとともに、様々な体験を通して、豊かな人間性が形成できるような居場所づくりを進めています。

さらに、地域で子どもを育てる環境の整備及び人間性豊かな子どもたちの育成を進めるため、例えば「宝来太鼓」の後継者など、地域文化の伝承や次代の担い手となる人材の育成を図りながら、多世代による交流の場づくりを進めます。

②「健康で元気なまちをめざします」

冬期間の運動不足を解消する取り組みとして、小中学校体育館を利用して「室内ウォーキング」を実施しています。

今後は、より楽しく充実した運動とするため、家庭などで不要となった健康器具やトレーニング器具などを再利用、再活用するなかで、さらなる健康増進への取り組みを推進します。

③「安全・安心な生活環境の実現に取り組むまちをめざします」

近年、台風や豪雨災害による家屋や財産・人命などへの被害が懸念されており、地域での災害に備えた取り組みが必要です。お年寄りや体が不自由な方、小さい子どもなどの要援護者の避難には、地域と行政との連携、協力体制が特に必要です。

自主防災組織が中心となって、安全・安心に住み続けられる地域をめざすため、地域コミュニティの醸成にもつながる自主防災組織の強化をめざします。

④「自然と共生した魅力ある農業のまちをめざします」

上土別地区は、国から農業の先導的モデル地区として位置づけられており、小区画で不整形な水田を大区画水田へ再編する国営農地再編整備事業が実施され、水稻作付けを主体とする集落営農や法人化への取り組み、また、効率的な農作業をめざすなかで、農作業機械の無人化など先進的な取り組みを進めています。

また、地域と関係団体などが連携し、上土別マップやイベントマップの作成、スタンプラリーを実施するなかで、「大自然の魅力を生かし、環境に優しい上土別」をめざします。

地域づくりの取り組み①

「世代間の交流の場づくりをめざします」

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- ① 田植え体験 《きたごりん》
- ② アジア・アフリカ米支援活動《食とみどり・水を守る全上川労農市民会議》
- ③ 町民体育の集い（東高も参加しての）《スポーツクラブ》
- ④ ビールパーティー《八十八夜》
- ⑤ 子ども盆踊り《上土別イベントクラブ、ICF》
- ⑥ 上土別神社祭典の宝来太鼓の演奏《宝来太鼓》
- ⑦ ライジングムーン《ゼンザーズ、ICF、公民館、神社実行委員会》
- ⑧ アイスキャンドルフェスティバル 《ICF》
 - ①～⑧は毎年1回開催
- ⑨ 東高の生徒への宝来太鼓の指導
- ⑩ 東高、保育園の農産加工体験《きずこう会》
 - 地区別計画の取り組み④「自然と共生した、魅力ある農業のまちをめざします」と関連あり
- ⑪ 小・中学校・東高校におけるコミュニティスクールの導入
- ⑫ 一夜会 上土別祭りの夜に出店

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 宝来太鼓の後継者の育成の取り組み方法は
- 現状の取り組みを継続させるためにはどうするか。
- 世代の変化で事業内容（イベント）も変わる。
- 同じイベントを次の世代に継続ではなく、マンネリ化としないようにする。
- 事業、イベント等の後継者の育成は課題である、どうするか。
- 東高と地域の関わりの進化
- IT（スマホなど）の活用はどうか。
- 従来の地域内のふれあいのイベントの手法が変わりつつある。

推進に向けた取り組み

- 町全体で参加できる事業はそのまま継続開催
- 今の世代のその時代に合った事業を行い地域の活性化を目指す。
- 開かれた学校づくりとCSを中心とした地域の関わり

地域づくりの取り組み②

「健康で元気なまちをめざします」

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 上土別小・中学校体育館を利用した室内ウォーキングの実施
- ～ 実施状況 ～
上土別ウォーキングクラブの登録者（約70名）のみ利用可能
体育館の2階ウォーキングコースのみ利用可能で規制はある。
11月～4月の間で、利用時間は午後3時30分～4時30分
65～75歳が多いが50代、80代も何人かいる。

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 健康増進のために参加者を増やすにはどうするか。
- 小中学校の体育館の利用について
- 昨今の2年間は感染予防対策で利用していない。
(学校は緊急事態宣言期間などの、国・道の基準に則して利用団体からの申請は可能な時は受けるとの回答)
- 体育館のみでなく、グラウンドの利用はどうか。
(学校はグラウンドを利用することは可能との回答)
- 周知方法をどうするか。
- 登録者でないと利用できない条件はどうか。
- 利用時間が学校との協議で決められている。
- ウォーキングで1号線を歩いている人がいるが、交通量が多く危険。
(1号線に歩道を付けてほしいとの、地域要望が継続中)
- 健康器具やトレーニング器具はどうしたら集められるか。
- どこに配置が可能か。
- 器具を使わなくてもできる健康づくり（例えばヨガなど）
- ラジオ体操の実施
- 体育館にスクリーンなどで大画面を活用し、スイッチなどのゲームをする。

推進に向けた取り組み

- 体育館が利用可能な時は現状のウォーキングを継続して開催
- グラウンドの利用は今後クラブで協議

地域づくりの取り組み③

「安全・安心な生活環境の実現に取り組むまちをめざします」

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 災害発生時に備えての自主防災組織は平成 24 年度に設立された
- 自治連役員が、自主防災組織の役員も担っている。
- 小学校で道による「1日防災学校」を開催し、地域住民も参加して段ボールベッドやパーテーションを利用した災害の研修をした。

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 自主防災組織の PR 方法は。
- 自治会で避難訓練を実施研修することが必要では。
⇒段ボールベッドやパーテーションの活用、保存食（備蓄）を活用する。
- 消防の救助訓練や救命処置訓練（心臓マッサージ、AED 利用）の研修
- 自治連総会で自主防災組織の認識をしてもらう。
- 各避難場所の周知
- 各避難場所の整備を進め、実際に使用出来るようにする。

推進に向けた取り組み

- 自治会役員会で自主防災組織の認識と周知
- 災害を想定した避難訓練、防災訓練等の開催

地域づくりの取り組み④

「自然と共生した魅力ある農業のまちをめざします」

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 国営農地再編整備事業の完了
- 法人化への取り組み
 - ①ファーム 6. 6（平成 19 年）
 - ②ふあーむほのか（平成 24 年）
 - ③希望の大地（平成 27 年）
 - ④侍士セブン（平成 28 年）
- 上土別をきずこう会などの農産加工センターでの地場産品の制作、販売
- 田舎塾での酒米づくり
- 八十八夜の第 10 回米 - 1 グランプリ IN らんこしで「ゆめぴりか」金賞受賞☆
- マッケンジーファームの設立
- ファームあるむのシフォンケーキ、プリンの販売

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 上土別マップ（ガイドマップのような）の作成
- 生産者や販売者が宣伝広告を兼ねて上土別を PR 出来るように作成
- 広告宣伝費用をもとに作成してはどうか。
- 光回線が整備されることでの IT を活用しての宣伝広告や販売などの手法は。
- 自然エネルギーを（太陽光、水力）利用しての取り組みはどうか？
- IT を利用した農業の推進、そのための各地区でのアンテナ等の設置
- 水が澄んでいることでやまべなどが生息する PR は。

推進に向けた取り組み

- 各法人など農業経営者の IT 化の推進
- 地場産業の推進

「地域づくりの取り組み」の見直し**①「子どもたちが集まり、子育てしやすい、まちをめざします」**

少子化等の影響から、年々園児が少なくなってきており、保育園の運動会は単独で開催できなくなったため、現在はいろいろ工夫しながら、多寄小学校の運動会や町民全体で行う「スポーツフェスティバル」と同時開催しています。

また、多寄保育園は僻地保育園であるため、「休みが長いこと」や「保育時間が短いこと」などから、子どもを預けて働くことが難しく、他の保育園に園児を預けなければならない状況もあります。

今後、多寄町に子どもが集まり、親子でコミュニケーションがとれる環境や、安心して子育てできる体制をつくるため、住民みんなが子育てに関わる「多寄コミュニティ・スクール」の活動を充実します。更には、保育園や小学校で多寄の魅力を生かした教育活動を住民みんなが協力して実施し、道内外から子育て世代の親が集まるような、魅力的なまちをめざします。

②「健康に暮らしつづけられる、まちを目指します。」

多寄町は、国道40号がまちの中心部を貫き、国道沿いを中心に発展したまちです。

町内には、パウダースノーの雪質に恵まれた「日向スキー場」や町民が力を合わせて造成した「日本パークゴルフ協会公認パークゴルフ場」などがあります。また、肥沃な大地からの恵みを受けて育った美味しい野菜やお米が身近にあり、スポーツと食により健康の維持・増進が図られています。

町民は、「日向温泉」や「日向森林公園」を、世代を超えて人と人とのつながりを強めることができる地域の宝物として大切にしています。

昭和29年には約4,500人だった多寄町の人口も、現在では800人を下回り、高齢化もあって、事業者の廃業に伴い、町民が買い物できる店舗が少なくなり、このまちで暮らし続けるための大きな課題となっております。

こうした課題から、令和3年に開店した「地域商店」の継続を図るため、多寄地域として「買い支え」の推進を図ります。

③「誰もが安全・安心で暮らせる、まちをめざします」

多寄町は、天塩川をはじめ、タヨロマ川、新タヨロマ川、東陽沢川など9河川が流れる水資源に恵まれたまちです。

その一方では、近年発生する集中豪雨などの自然災害により、家屋の浸水や農地の冠水、河川の氾濫などの被害が発生しています。

こうした災害から人命を守るため、自治会を中心に地域関係団体（消防団、学校、JAなど）と連携した「自主防災組織」を設立します。

「自主防災組織」の主な活動としては、「防災訓練」や「救急救命講習会」など、防災活動に必要な知識や技術の習得に努めるとともに、「安全・安心な暮らしを守る意識」の啓発や「防災活動」への関心を高める情報提供を行い、こうした活動を通じて地域コミュニティが充実した、安全・安心なまちづくりをめざします。

④「農業と日向地区の宝物を活用し、活力ある、まちをめざします」

多寄町では、人口が年々減少し、商店街も廃業する商店などがみられるなかで、生活基盤やまちの活力の低下が懸念されます。

こうした現状に対応するため、若者が「住みたい」と感じる魅力的なまちづくりをめざして、雄大で肥沃な大地の恵みを最大限に活用し、安全・安心・クリーンな農畜産物をPRする必要があります。

また、情に厚く、思いやりのある“町民”も財産であり、双方のPRを通じて、基幹産業である農業の発展をぞして、「新規就農者へ積極的に農業技術を提供」し、全国各地から移住者が訪れるまちづくりを促進します。

「日向森林公園」は、アウトドアが楽しめる場所としては珍しく、周囲には、山菜や野花、桜・カタクリの群集などが、春から秋にかけて周辺を色鮮やかに賑わせる、心和ませてくれる公園です。

また、園内には、これまでの日向地域に関わる歴史や先人・縁者の方々の思いなどが謳われた百基余りの句碑が、歴史と共に佇んでいます。

園内のキャンプ場は、傾斜地のためテント設営が困難な場合もあり、バンガローの老朽化もあって、自然環境は整っていますが利用は低調です。

11月下旬から天然雪で滑れることのできる全国的にも稀な日向スキー場のPRを今まで以上に行い、「日向温泉」との連携と一体化を考慮し、五感を高める多寄の町として、今後の地域活性化に取り組むことを検討します。

地域づくりの取り組み①

子どもたちが集まり、子育てしやすい、まちをめざします

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 園児を交通事故から守るため、注意喚起の看板を設置☆
- 保育園横の道路に歩道を造成☆
- 多寄地区学校運営協議会を設置し、「多寄コミュニティ・スクール」の活動を開始☆
- 小学校に「放課後子ども教室」を設置☆
- 保育園運動会と小学校運動会と町民スポーツフェスティバルの合同開催☆
- 地域の実態等から親の負担軽減に向け、4単位子ども会を1つに合併☆ など

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 保護者と子どもの多忙感
- 交通安全の確保と保護者の送迎
- 行政と住民の協働
- 「多寄コミュニティ・スクール」の充実
- 多寄の魅力を生かした教育活動の充実（ふるさと教育） など

推進に向けた取り組み

少子高齢化の進展に伴い、子育て世代が激減しているにもかかわらず、子育てに関する組織や会議は当時と変わっていない。そのため、子育てに慣れていないのに様々な会議に参加しなければならず、子どもと一緒に過ごす時間がとれない現状にある。

一方、子どもたちも部活動や習い事で忙しく、親子でコミュニケーションがとれない環境にある。更には、友達と遊ぶためには親が送迎しなければならず、必然的に学校から帰ると一人で過ごす時間が多くなる。

「子どもたちが集まり、子育てしやすいまち」をめざすには、地域の宝である子どもたちの健全育成に全ての住民が携わり、保護者の負担を軽減し親子のふれあいの時間を確保したり、多寄の魅力を活かした教育活動を展開する必要がある。

具体的な取り組みとして、一つ目は、全ての住民が多寄保育園や多寄小学校の活動に積極的に関わり、「地域の子どもは、地域で育てる」趣旨で実施している多寄コミュニティ・スクールの活動を充実させること。

二つ目は、多寄保育園や多寄小学校と協力して、地域の基幹産業である農業や地域の豊かな自然を生かした、多寄でしかできないような魅力的な教育活動を展開すること。

最後に、地域の住民みんなで子どもたちを見守り、子どもの安全・安心を確保し、道内外から子育て世代の親が集まるような魅力的なまちをめざす。

地域づくりの取り組み②

健康にくらしつづけられる、まちを目指します。

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- ふまねっと運動の例会活動実施（歩行機能・認知機能改善運動）
- 多寄地区内老人団体例会開催及び対応プログラムの作成（ゲーム等）
- 多寄パークゴルフ場に関する国際認定の取得及びコースの維持管理
- 多寄地区内スポーツ団体によるスポーツ教室開催（スキー、卓球、ミニバレー）
- 地域商店開店支援活動など（開店告知、利用促進告知、敬老会用タイアップ商品券発行）☆

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 各団体の会員募集に苦慮
- 地域役員の役職が多く、担い手の取り合いが生じている。
- 地域役員の中でも特に団体の中核となる事務局役が敬遠され選定に苦慮
- 10年先の地域商店存続状況

推進に向けた取り組み

3点に絞り今後の取組み概要を整理

- 健康で暮らし続けられる環境。
- 将来を見据えた買い物環境の維持。
- 土別市が行う地域交通施策への関わり方（乗合タクシー実証実験 など）

〈推進内容〉

健康の維持推進については、体力的活動のほか、各所で集まる町民同士のコミュニティ活動が重要であり、もとより多寄町内で組織される「多寄町体育協会」「ふまねっと」「各老人団体」などが中心となりその役割を担ってきたが、近年では「高齢化」「過疎化」の影響から団体の維持が困難になりつつある。

これらをふまえ、今後においては既存の事業を整理しつつ、運営者及び参加者双方が負担を感じず、楽しめるものを中心に「可能な範囲で」今後の事業推進を図っていく。

買い物環境の維持・推進については、令和3年に多寄町内に地域商店が誕生したこともあり、今後においては「地域商店への買い支え」を中心に推進を図るところではあります。個人消費活動に対して強制をすることは不可能であることから、まずは多寄町内で組織される団体を中心に「買い支えの取組み」を推進し、個人に対しては自身の将来を見据えた「買い支え意識の普及」に努めていく。

また、買い物環境などとも関連性のある「地域公共交通の維持」については、令和3年から実施の「乗合いタクシー実証実験」で代表されるように、土別市が中心となり今後検証・検討を行っていくこととなりますが、多寄地域としても「地域公共交通維持」のため、土別市と足並みをそろえ可能な範囲で協力を行っていく。

地域づくりの取り組み③

誰もが安全・安心で暮らせる、まちをめざします

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 多寄地区自主防災組織設立☆
- 多寄地区防災訓練実施☆
- 交通安全街頭啓発活動
- 消防訓練、火災予防啓発活動

- 消防少年クラブ活動
- 消防団後援活動
- まず「自分たちのまちを自分たちで守る」という意識を持ってもらうことが大事。日頃の啓発活動の中で、そのような意識付けはできているのではないか。

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 災害があった際の避難者等の情報の共有
(市で把握しているものを自治会、消防団などにも開示してほしい)
- 町内に設置されている避難所、避難場所の案内掲示板が少ない。
- 関係団体との連携（例えば防災訓練の際、自治会だけではなく消防団や交通防犯協会などと連携して実施することで、より実践的な訓練ができるのではないか）
- 少子化により消防少年クラブなど団体の存続が困難になっている。また、人口減で空き家が増えると空き巣などの心配が出てくるが、誰にどのように啓発を行うか難しい。

推進に向けた取り組み

多寄地区の全自治会に「自主防災組織」が設立され、自治連が主体となって「防災訓練」や「救急救命講習」を実施する中で、「自主防災組織の防災活動に必要な知識や技術の習得」と「住民に対しての意識付け」という目的は達成されつつあると考えます。

今後は従来の活動から一歩進めて、「自主防災組織」を中心に、消防団や交通防犯協会、学校、JAといった地域の関係団体と連携し、より実践的な防災活動を行っていくことと合わせ、避難場所の周知や、災害への備えについての啓発活動などを通して、「住民一人ひとりが防災に対する心構えを持つ」という意識付けを行っていくことが必要です。

一方で、地域の中では少子化や人口減といった課題があり、防災や防犯の啓発活動や組織体制作りが困難になってきていることも事実です。そのような現状の中で、人口減に対応した活動や組織作りを行いながら、地域全体で「安心・安全なまちづくり」に取り組むことが重要です。

地域づくりの取り組み④

農業と日向地区の宝物を活用し、活力ある、まちをめざします

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 地域おこし協力隊（農業支援員）の受入れ☆
- 地域おこし協力隊（梅基さん）の農業受け入れは成功例☆
- 新規就農者、Uターン就農者受入れ
- たよろ de 市開催
- 日向句碑管理活動

- 日向思い出の森親交会の活動は句碑の管理だけにとどまらず公園の法面草刈りなど良い取り組みの一例
- 緑の散歩道発刊
- 新そばまつり in たよる開催

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 農地を広げたい地元者の意見と、新規就農で農地を手に入れたい意見とがミスマッチする。
- 日向温泉をもっと利用してもらおう取組として宿泊施設がないと伸びない。(ハード面)
- スキー場のリフト券と温泉入浴券・食事券の抱き合わせ販売ができれば良いが、事務手続きに手間がかかる。
- 農業では今は若い馬力のある人材が農地を拡大しているが、この先の親もリタイヤし家族(親)も手伝ってくれる農家経営が難しくなってくる。
- 新規就農者が農業を営むことも必要だが、農業で雇用を生み出す考えも必要(法人化など)
- 離農等により人口減少が進み空き家が増えている活用方法が重要

推進に向けた取組み

多寄町の人口減少は著しく進んでいます。

「活力あるまちづくり」を推進するうえでは、現在の人口減少スピードを抑制することや、対外的な活力の流入が必要であると考えられ、多寄町においては第一に基幹産業である農業の今後のあり方について考えていくことが必要であります。

現状では、多寄町内の「若い力」の頑張りもあって農業の「大規模化」や「法人化」など、多寄町内における農業の発展・推進は図られておりますが、今以上の充実を図るためには、町外からの就農者を受け入れることも不可欠と考えられます。

こうした町外からの受け入れを促進するためには、まず多寄町の魅力を知ってもらうことが重要であり、現代に見合ったインターネット(各種SNS)を活用する中で、多寄町内の様子や、農業への取組みなどの情報を発信し、合わせて多寄町内で増えつつある「空き家」など、農業へとつながる活用方法を検討すべきと考えます。

そのほか、法人化が進む多寄町の農業においては、農業者と地元企業との交流などから、企業経営ノウハウを知る機会を得ることも今後の農業経営においては有効だと考えられ、農業を起点とした新たな雇用の創出も期待できます。

また、多寄町の特色である日向地区の観光資源においては、北海道内でもいち早くオープンし、雪質も良い「日向スキー場」のPRを充実させ、多寄町外からの流入客を受け入れる中で、「日向温泉」とのタイアップも検討し、多寄町の魅力発信に努めることも必要であると考えられます。

以上のことから、多寄町の特徴を生かし対外的な魅力発信のもと、新たな活力を受け入れることによって活性化を促し、今後においても多寄町全体への活力波及につながる「農業と日向」の振興について検討していきます。

「地域づくりの取り組み」の見直し**①「誰もが、健康で暮らせるまちづくりに向けて、地域交流・健康増進の施設を充実します」**

高齢化が進むなか、誰もが元気で健康な暮らしを願っており、そのためには、身体を動かし自らの健康管理と、人との交流を図ることが必要です。

健康増進のために、屋外ではパークゴルフ、屋内では1年を通じて交流センターで、卓球やミニバレーなどの軽運動での健康づくりを行うなど、誰もが利用できる交流の拠点施設とします。さらに、交流センターの屋外のグラウンドも利用して、健康増進を図ります。

憩いの広場パークゴルフ場や交流センターは、将来にわたり地域の宝として利用するため、今後も地域で協力しながら芝刈りなどの維持管理を継続し、地域に住んでいる方が元気で過ごせる地区をめざします。

②「各自治会での防災体制の取り組みを強化し、一人も見逃さないネットワークづくりをめざします」

温根別地区は、30本を超える河川・沢川があり、主流の大きな河川改修は進みましたが、近年の気象状況が変わり、家屋の浸水、農地冠水、道路冠水など被害が絶えません。

また、豪雪地帯でもあり、高齢化に伴い除雪作業に苦勞する世帯が増えています。

平成23年に自主防災組織を設立し、緊急時の取り組みを進めていますが、今後は大雨や大雪に備え、事前に地域で連携し役割分担を確認するなど、さらに防災意識を高め組織強化を進めます。

また、各戸に避難場所や避難時に必要な防災グッズの確認など、チラシなどで情報提供を行いながら、地域が地域を守るため一人も見逃さないネットワークづくりに取り組みます。

③「現在の地域の特色を生かしたイベントを継続して実施し、活力あるまちをめざします」

これまで継続して行っている「温根別冬まつり」、「コスモスロードの造成」など地域の特色を生かした事業・イベントは、地域の宝物であり地域全体で実施しています。

人口の減少、高齢化が進むなか、地域の活性化につなげるため、高齢者の経験豊かな知恵と若年層の発想の融合で今後も継続開催します。

イベントにより多くの町民が参加することで、情報交換や多世代の交流を深め、「人と人との和」を大切にしたい活力あるまちをめざします。

地域で安心して避難できる場所や高齢化が進むなかでの高齢者の憩いの場として、地域コミュニティの中心となる施設のあり方や、これにあわせて、安心して子どもを預け育むことができる保育機能を併設する、よりよい環境づくりに取り組みます。

④「地域の方が安全・安心に集えるコミュニティづくりをめざします」

現在、温根別保育園や学童保育、温根別老人クラブで利用している温根別多目的研修集会施設は、老朽化が進み、改修にも多額の費用が予想されます。

また、地域には緊急時に安心して避難できる場所がなく、士別市内に移動を余儀なくされている現状にあります。

地域で安心して避難できる場所や高齢化が進むなかでの高齢者の憩いの場として、地域コミュニティの中心となる施設のあり方や、これにあわせて、安心して子どもを預け育むことができる保育機能を併設する、よりよい環境づくりに取り組みます。

地域づくりの取り組み①

「誰もが、健康で暮らせるまちづくりに向けて、地域交流・健康増進の施設を充実します」

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

○憩いの広場（旧温根別医院）の利用

- ①パークゴルフ場（5月～10月）
- ②ゲートボール場（5月～10月）
- ③カラオケ（通年利用）
- ④その他（まちの地域力推進事業補助金、令和元年度）☆
 - ※カラオケ機器及び屋外用テントの更新☆
 - ※親睦交流会の実施（施設利用の推進）☆

○交流センター（旧温根別中学校体育館）の利用

- ①体育施設
 - ※卓球・バドミントン・ミニバレー・ウォーキング等の利用
- ②町民行事
 - ※ビールパーティ・運動会の会場（雨天時）
- ③冬期間の利用
 - ※温根別冬まつりの会場として利用（令和3年3月）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 両施設とも利用者が減少傾向にあり、また固定化してきているため、会員拡大や若者や地域の子どもたちが多く利用できるような仕組みづくり、会費の増額の検討が必要である。
- パークゴルフ場の維持管理を担う後継者づくりが必要である。
- 施設利用時に時間が合わず、公共交通では移動が困難な場合がある。

推進に向けた取り組み

- 町民全体が参加できる盆踊り大会等の開催
- 利用者・会員数を増やすためのPR活動
- 小学校やスポーツクラブ等と連携したスポーツ交流会などの開催

地域づくりの取り組み②

「各自治会での防災体制の取り組みを強化し、一人も見逃さないネットワークづくりをめざします」

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 避難訓練の実施（令和元年度）☆
 - ※新「洪水ハザードマップ」を利用した避難訓練を実施☆
- 避難共助計画の作成（令和2年度）☆
 - ※避難行動要支援者（2名）の共助計画を作成☆
- 除雪ボランティアの実施
 - ※社協温根別支部の取り組み

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 温根別地区は沢づたいに道路があるため、避難時における水害の影響が懸念されることから、日頃から安全な避難場所を考えていく必要がある。
- 一人世帯や独居老人が増加しているため、共助による避難が必要であることから、定期的な共助の対象世帯の確認や移動手段の確保が必要である。
- 自主防災会のさらなる機能の充実が必要である。
- 高齢者住宅の除排雪作業を担う後継者づくり等の対策が必要である。

推進に向けた取り組み

- 年1回程度の避難訓練の実施による、避難場所等の周知・確認
- 一人世帯への訪問（福祉パトロール）の継続実施
- 災害時に機能する自主防災会の組織づくり
- 土嚢づくりなど、災害時の取り組みに関する講習会の実施

地域づくりの取り組み③

「現在の地域の特色を生かしたイベントを継続して実施し、活力あるまちをめざします」

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

- 温根別冬まつりの実施（毎年3月の第1日曜日）
 - ※コロナ禍で令和2年度は止む無く中止となったが、令和3年度は地域限定で開催。
- 温根別コスモスロードの実施（毎年6月～10月）
 - ※毎年6月上旬ごろに播種作業（看板設置）を実施
 - ※8月下旬ごろに草刈り、10月上旬ごろに刈り取り（看板撤収）を実施
- 親睦交流会の実施（令和元年9月開催）☆
 - ※地域住民を対象とした親睦交流会を「憩いの広場」にて実施☆
- 温根別神社祭典協賛事業の実施
 - ※露店（ヨーヨー釣りほか）の実施（温根別まちづくりの会）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 温根別冬まつり
 - ・コロナ禍の状況によっては、今後も継続して実施することが難しくなる懸念がある。
 - ・イベントを担う若手人材の不足や負担増が懸念されることから、イベントの規模や対象者など、あり方を検討する必要がある。

推進に向けた取り組み

- 温根別冬まつり
 - ・適切な規模に縮小したイベントの開催による、より主催者や地域住民が楽しめるイベントづくり

地域づくりの取り組みの見直し④

「地域の方が安全・安心に集えるコミュニティづくりをめざします。」

〈取り組み実績（2018～2021年度）〉

※温根別多目的研修集会施設の利用

- 温根別保育園としての利用

※通年利用

- 温根別長生会としての利用

※月2～3回程度の利用

※和室の床の改修工事を実施している。（令和元年度）

〈今後の取り組みの推進に向けて〉

課題

- 保育園は令和4年3月末で閉園となるため、今後は学童保育としての利用となる。

推進に向けた取り組み

- 学童保育の継続や放課後子ども教室などの実施
- 温根別長生会の会員増に向けたP R活動

* 検証・見直しのワークショップ等開催状況

地区別計画の検証・見直しにあたり、市民の皆さんが参加するワークショップを中心として8地区で意見交換を実施しました。また、地域の思いを「地域づくりの取り組み」に反映しました。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、「朝日地区」「上士別地区」「多寄地区」「温根別地区」以外の地区は、地域の自治会長や役員を中心に、取り組みの実績や今後の課題について意見交換を行いました。

<朝日地区>

回数	月 日	参加者	主な協議内容
1	令和3年11月29日(月)	8人	【地区別計画ワークショップ(あさひまちづくり連絡会委員)】 ・地区別計画の検証・見直しについて ・取組実績、課題、今後の取組について
2	令和3年12月9日(木)	12人	【ワークショップ欠席委員からの意見聴取(書面)】 ・前回ワークショップの協議結果について ・地区別計画の見直しに当たっての意見聴取
3	令和4年2月28日(月)	20人	【地区別計画検証・見直し内容の確認】 ・地区別計画の検証・見直し最終結果の報告・確認(書面)

<上士別地区>

回数	月 日	参加者	主な協議内容
1	令和3年8月6日(金)	6人	・自治会長会議において地区別計画の検証、見直しの説明
2	令和3年12月22日(水)	8人	【地区別計画ワークショップ】 ・取組実績、課題、今後の取組について
3	令和4年1月21日(金)	16人	・ワークショップ欠席委員への書面送付(16名) ・前回のワークショップの協議結果について ・その他、意見聞き取り
4	令和4年3月2日(水)	32人	・地区別計画の検証、見直し結果の報告(書面送付) ・自治会長及び策定委員へ送付

<多寄地区>

回数	日 時	参加者	主な協議内容
1	令和3年8月12日(木)	6人	【多寄地区自治会長会議】 ・地区別計画見直し作業に関する概要説明
2	令和3年10月6日(水)	9人	【多寄地区自治会及び社協多寄支部合同会議】 ・地区別計画見直しアンケート第1素案に関する意見徴収、実施時期検討
3	令和3年10月15日(金)	5人	【多寄地区自治会長会議】 ・地区別計画見直しアンケート第2修正案に関する意見徴収、実施方法検討
4	令和3年10月22日(金) ～11月30日(火)	328 世帯	【多寄地区別計画見直しアンケート実施】 ・多寄地区内全世帯対象 ・回収率 32.3% (106世帯 / 328世帯)
5	令和3年12月14日(火)	27人	【第1回ワークショップ】 ・地区別計画見直しの概要及びアンケート結果内容説明(企画課・多寄地区自治連事務局) ・取組み実績、課題点に関する意見交換 ・各座長から全体へ向け内容発表
6	令和3年12月20日(月)	28人	【第2回ワークショップ】 ・今後の推進に向けた取り組みへの意見交換 ・各座長から全体へ向け内容発表
7	令和4年3月		・多寄地区自治会連絡協議会長名により、多寄地区内全世帯へ見直し結果配布

<温根別地区>

回数	日 時	参加者	主な協議内容
1	令和3年7月20日(火)	25人	【地区別計画ワークショップ】 ・地区別計画の見直し ・取組み実績、課題、今後の取組等について意見交換
2	令和4年3月2日(水)	6人	・自治会長へ地区別計画の見直し内容の確認 ・取組み実績、課題、今後の取組等について
3	令和4年3月8日(火)	5人	【自治会長会議】 ・地区別計画の見直し内容の最終確認、決定

士別市まちづくり総合計画
地区別計画(別冊)
2018年度～2025年度

■発行 令和4(2022)年3月
■編集 士別市総務部企画課